

# 多自然サポートセンター(岡山県河川担当者研修)

河川・海岸グループ 研究員 小野 幹夫

## 1. はじめに

多自然川づくりに対する技術的な支援、市民との連携の強化、具体的な内容の相談窓口、情報の共有等を目的として、当センターでは、平成20年2月に「多自然川づくりサポートセンター」(以下「サポートセンター」という。)を設置している。(サポートセンターのこれまでの活動状況については、『RIVERFRONT』Vol.68を参照願いたい。)

この度、岡山県より河川担当者を対象にした多自然川づくりに関する研修に対する講師・アドバイザーの派遣、研修内容の技術支援の要請があり、多自然川づくりの人材育成の一環としてサポートを行った。また、当サポートセンターにおいても地方公共団体に対する初めての研修となるため、今後の研修プログラムの充実に関する情報収集と位置付け、2つの目的を持って実施した。

サポートセンターからは、講師として吉村伸一氏、アドバイザーとして主席研究員内藤、研究員小野が参加した。

主催者は、岡山県土木部河川課及び(財)岡山県建設技術センターであり、参加者(受講者)は16名の県出先事務所の職員と5名の市職員である。

研修は、午前中に2河川を現地踏査し、午後から講習及び演習を行うスケジュールで行われた。

○開催日：平成22年7月2日(金)

○スケジュール

|             |            |
|-------------|------------|
| 9:00        | 建設技術センター集合 |
| 10:00~10:30 | 惣分川現地踏査    |
| 11:00~12:00 | 小野田川現地踏査   |
| 13:20~14:30 | 講習(東備事務所)  |
| 14:30~16:10 | 演習(東備事務所)  |
| 17:00       | 技術センター解散   |

## 2. 現地踏査

現地踏査は、惣分川、小野田川について実施した。惣分川は事業完了後14年が経過しており、小野田川

表-1 河川の概要

| 河川名   | 一級河川惣分川  | 一級河川小野田川 |
|-------|----------|----------|
| 事業名   | 河川局部改良事業 | 総合流域防災事業 |
| 事業延長  | 400m     | 2,100m   |
| 事業期間  | 平成2年~8年  | 平成元年~    |
| セグメント | 1        | 1        |
| 河床勾配  | 1/165    | 1/150    |
| 河床材料  | 礫・玉石     | 礫        |

については事業継続中の河川である。

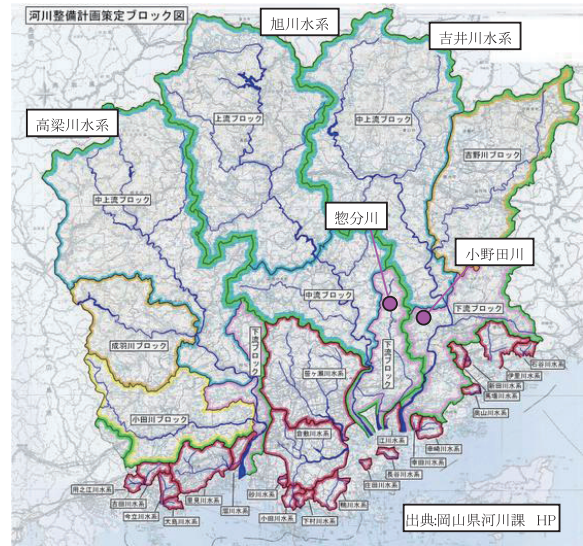


図-1 位置図

### (1) 現地踏査での狙い

参加者には事前に現地踏査のポイントを詳しく説明せず、現地を見て多自然川づくりの視点で大事にするところ、ダメなところなど気付いたことを縮小図面にメモさせることで、着眼点を把握することを狙いとした。

### (2) 惣分川

河道の付け替えと河川公園の整備を行っている。当初は、水辺の楽校の一つとして中洲を形成したり、みお筋も意図的に作られていたが、その後の出水時の攪乱により、中洲は土砂で覆われ、みお筋もその形を変えている。

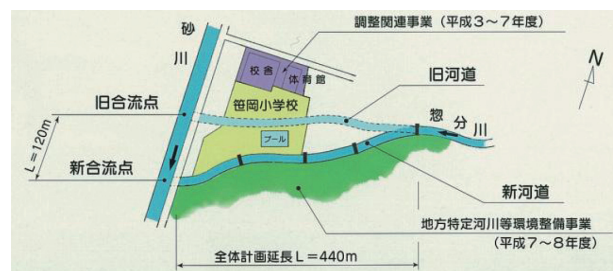


図-2 惣分川の概要図



写真-1 現地踏査の状況(惣分川)

### 3. 小野田川

拡幅及び河床掘削による河道改修を行っており河道断面は5倍程度大きくなる。事業開始の翌年から始まった「多自然型川づくり」に取り組んでおり、各断面において植生回復、みお筋形成などが見られるが、問題点として河道断面(護岸勾配)の2度の変更、多種多様な護岸構造の採用等が挙げられている。



写真-2 現地踏査の状況 (小野田川)

### 3. 講習

#### (1) 講習での狙い

参加者21名の内訳は、①河川事業に従事した経験がない人6名、②河川事業に従事した経験が5年以下の人が10名、③経験が5年以上の人が5名であった。

また、「多自然川づくりポイントブック」を詳細に読み込んでいる参加者は、主催者である土木部河川課を除いていなかった。

従って、「多自然川づくりポイントブック」に基づいた多自然川づくりの考え方の講義と事例紹介を通じて、多自然川づくりの基本を理解してもらうこととした。

#### (2) 概要

講師による講習は、参加者の現状を踏まえ、これまでの多自然型川づくりの問題点・課題、これからの多自然川づくりの取り組み、考え方について、パワーポイントを用いて分かり易く行われた。



写真-3 吉村氏による講習

講習での講師の一言  
“コストが掛からない多自然、地域が協力してくれる多自然が大事である。”

### 4. 演習

参加者21名を3グループに分け、各グループ7人で演習を行った。

#### ■惣分川

##### (1) 演習での狙い

「多自然川づくりポイントブックⅡ」のP.60に示すような河川の水利特性、環境特性(自然環境、景観・歴史・文化、利用)の現況を読み取ることに着目することとした。

##### (2) 概要

現地踏査でメモしたこと、屋内で全体平面図を見て改めて気付いたことを付箋(水色:良いところ、ピンク:悪いところ)に書いて図面に貼付し、意見をグループ討議したのち、代表者が図面を用いて発表した。

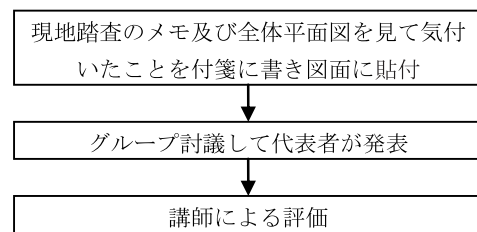


図-3 惣分川の演習手順



写真-4 グループ別の議論と発表 (惣分川)

各グループより、予想以上にたくさんの意見が出されており、それについて講師及びアドバイザーによる評価が行われた。最後に、講師から以下の項目が挙げられると、参加者から“なるほど”とうなずく姿が多く見られた。

#### 1) 良いところ

- ・低水護岸を設置しなかったため、川の営力により自然な水際部が形成された。
- ・護岸に自然石を使っているが、深目地であり植生が付きやすい。

#### 2) 悪いところ

- ・護岸に自然石を使っているが、天端がコンクリート打ちであり一貫性がない。

演習での講師の一言  
“川は、出水時の攪乱によって設計のダメなところを直してくれる。”



### 3) 仕事の進め方についてのアドバイス

多自然川づくりのみに止まらず、これまでの経験を生かした仕事の進め方については、以下のようなアドバイスがあった。

- ・ 打合せでは縮尺が大きい図面を用意し、思ったことをすぐ図面に書き込むことが重要である。問題点・着目点を空間的に把握することができ、情報の共有にもつながるため、いい川づくりには欠かせないことであり、コンサルタントとの打合せでも実践してほしい。
- ・ 河道設計の際に残したい河岸樹木をすぐ把握できるように、測量時には、河岸樹木に印を付けておくことが重要である。

#### ■小野田川

##### (1) 演習での狙い

講習に基づき、すぐにでも実践できる川づくりを身に付けること。(縮尺の大きい図面を用いることが重要)

##### (2) 概要

グループ別に、全体平図面を判読しやすいように、現況河川、道路、橋梁、家屋などを着色したのち、講習に基づき多自然川づくりについてグループ討議し、代表者により発表した。

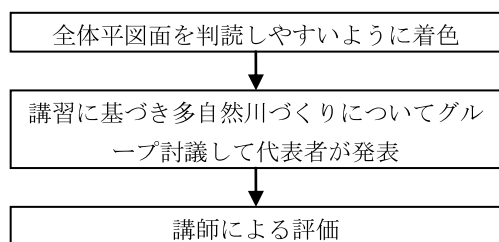


図-4 小野田川の演習手順

小野田川については今後も改修が続くため、参加者も真剣に議論に取り組み、多自然川づくりのポイントである現況の河道法線を活かすこと、改修は片



写真-6 グループ別の議論と発表（小野田川）

岸拡幅にすることなどを踏まえた提案がなされていた。

また、各グループによる発表では、他のグループから質問・疑問が出されるなど、活発な議論が行われていた。



写真-7 講師、アドバイザーによる総評

### 5. おわりに

現地踏査の段階では多自然川づくりに後ろ向きな意見もちらほら聞かれていたが、演習では自らの意見を求められると多自然川づくりに対して前向きな姿勢で議論がなされていた。

また、今回の研修を通じて、「多自然川づくりポイントブック」を含めた多自然川づくりの具体的な内容が現場の技術者に伝わっていないことが分かったが、このことは他の河川管理者（事業者）でも考えられるため、サポートセンターのアドバイザー（専門家）派遣を含め、多自然川づくりに関する各種講習会やセミナー等の開催が重要であることが再認識させられた。

今後とも、多自然川づくりの普及に向けて、人材育成を含めたサポートセンターの活動を続けていきたい。

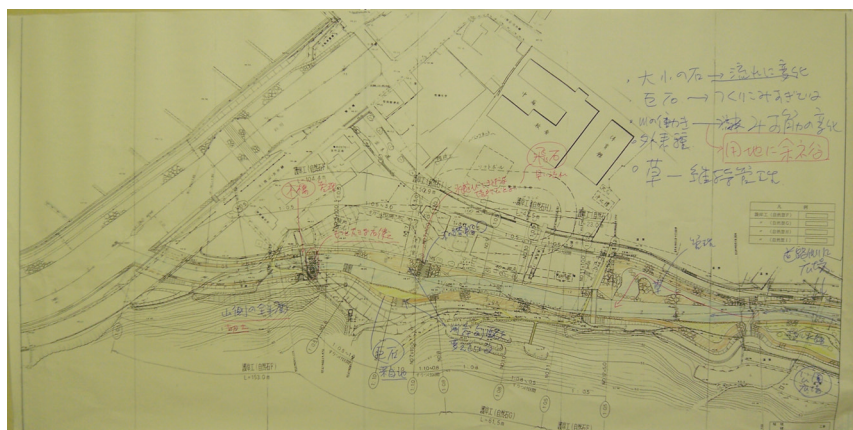


写真-5 吉村氏による演習に用いた図面（惣分川）